令和５年度の校内授業研究及び公開研究授業について

１　校内授業研究のテーマ

本年度は、校内授業研究テーマを「他者とのやりとりを通じて、多様な考え方を理解し、新たな考え方を発信できる指導と評価の研究」とし、全教職員で研究テーマを踏まえた授業改善と公開授業研究を行った。

２　公開研究授業について

（１）実施日時　令和５年 12 月１日（金）　13 時 30 分～17 時 00 分

（２）詳細な時程

13 時 30 分	校長あいさつ
13 時 40 分 ～ 14 時 30 分	公開研究授業①（５時間目）
14 時 40 分 ～ 15 時 30 分	公開研究授業②（６時間目）
15 時 45 分 ～ 16 時 30 分	研究協議会（教科ごとに実施）
16 時 35 分 ～ 17 時 00 分	全 体 会

（３）実施した教科、科目及び学年

・国語	現代の国語	１学年
・公共	公共	２学年
・数学	数学Ａ	１学年
・理科	生物基礎	１学年
・保健体育	体育	１学年
・外国語	英語コミュニケーションⅡ	２学年
・家庭	家庭基礎	１学年

（４）学習指導案について

・２ページから 29 ページに掲載しています。

（５）研究協議について

・30 ページから 37 ページに掲載しています。

令和５年度 横浜氷取沢高等学校 公開研究授業 学習指導案【グローバル教育研究推進校】

＜今年度の校内授業研究テーマ＞

他者とのやりとりを通じて、多様な考え方を理解し、新たな考えを発信できる指導と評価の研究

令和５年 12 月１日（金）　５校時

教　科：国語	科　目：現代の国語	授業担当者：本間 瑞樹
単元名：「生命」の問題に関して、自己の考えをもとに賛否を論述しよう。 「命は誰のものなのか」（数研出版　『現代の国語』）		

１．本単元で育成したい資質・能力　〔目指すべき生徒の学ぶ姿〕

・主張と論拠など情報と情報との関係について理解できる。［（２）ア］［知識・技能］

・「書くこと」において、意図に応じて書かれているかを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言を踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直すことができる。［Ｂ（１）エ］［思考・判断・表現］

・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。［学び合う力、人間性等］

２．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。［（２）ア］	・「書くこと」において、意図に応じて書かれているかを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言を踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。［Ｂ（１）エ］	・筆者の意見を参考にしながら、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自己の思いや考えを広げたり深めようとしている。

３．単元について

本教材は、終末期医療等の問題をテーマとした評論文である。医学の発達とともに、現代社会において命に関する諸問題、とりわけ倫理的な問題が指摘されている。本教材を読むことで、生徒が普段あまり意識することのない問題であり、しかしながら誰もが必ず直面する問題である「人間の生命」について考える契機としたい。

４．単元計画における指導と評価の工夫点

（１）「知識・技能」の指導と評価

・指導：形式と条件を提示し、それを基にして論述させる。

・評価：ワークシートの記述で評価する。

（２）「思考・判断・表現」の指導と評価

・指導：筆者等の考えや意見を踏まえた上で、自己の記述した文章の課題等を整理させる。

・評価：筆者の「命はその人個人のものであるか」という問題提起に対し、自己の考えを根拠や具体例を交えて整理できているかをワークシートの記述で評価する。

（３）「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

・指導：主体性をもって自己の考えを整理し、学習課題に取り組ませる。

・評価：指導者の声掛けを行いつつ、授業中の生徒の発言の変容について評価する。

５．単元の指導と評価の計画（本時は、　５　時間扱いの　１　時間目）

◇は「学習の質を高めるための評価」（＊形成的評価）、☆は「＊記録に残す評価」（総括的評価）

時	主な学習活動	指導上の留意点	学習内容	評価場面・評価活動
1	・教師が示す社会問題を取り上げた時事記事を読み、個人の賛否をそれぞれ考える。	・教師の用意した資料を読み、個人の賛否を考え、それぞれをまとめさせる。	・ロイロノートを活用し、自己の考えをまとめ、それを全体で共有する。	思ロイロノートの記述（◇） 思生徒の観察・発言の確認（◇）
2	・事前アンケートの結果から、自分の「命は誰のものなのか」について、クラスの皆の考えを共有する。 ・全文を通読し、筆者の主張を確認する。	・自己の考えはロイロノートを活用し提出させる。ただし、個人名は伏せる。	・自己の考えをロイロノートで提出し、他者の意見として共有する。 ・ワークシートを使用し、筆者の主張を整理する。	思ロイロノート、ワークシートの記述（◇） 思生徒の観察・発言の確認（◇）
3	・筆者の問題提起「死ぬ見込みもなく、激しい苦痛のある人は、苦しみ続けなければならないということであろうか」を確認する。 ・具体例（カレン・アン・クインラン事件）を読み取る。	・ワークシートを使用し、筆者の主張を整理させる。	・「クインラン事件」の内容を整理し、筆者の葛藤等を読み取る。	思ワークシートの記述（◇）

4	・筆者の主張と問題提起を読み取る。 ・「命は自分のだけのものではない」ということは、どういうことなのかを考え、まとめる。	・ワークシートを使用し、筆者の主張を整理させる。	「命は長い歴史をもつ」「多くの人に分配されている」ということを念頭に置いて、筆者の考えを読み取る。	主 思 生徒の観察、ワークシートの記述(◇) 主 振り返りシートの記述(☆)
後日				知 思 ペーパーテスト、定期テスト(☆)

６．本時の目標／本時のねらい

・興味をもって、資料や文章を読もうとしている。
・昨今、社会問題化している「熊を駆除すること」について、その賛否を個人の意見として持ち、他者の意見を共有する。

７．本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	【評価の観点】評価方法
導入 (10 分)	・昨今、社会問題化している「熊による人の被害」について、ニュース記事を参考に学ぶ。	・事実を正確に把握させるようにする。	
展開 (30 分)	・「熊を駆除する」ことに関して、各個人の賛否をロイロノートで提出させる。 ・クラス全員で他者の考えを共有する。	・ロイロノートで提出する際に、賛否を色別に分けて提出させるようにする。 ・賛否それぞれの理由をカードに具体的に記入させ、電子黒板にその概要を投映し、主な理由を把握させるようにする。	【思考・判断・表現】 ロイロノートの記述(◇) 生徒の観察・発言の確認(◇)
まとめ (10 分)	・次時の取り組む内容を理解し、アンケート「生物の命は誰のものなのか」について回答する。 ・次時の学習内容を予告する。	・生物の生命、とりわけ人間の生命について、自分なりに考えさせる。	

８．今年度の校内授業研究テーマに対して授業担当者が意識して取り組んできたこと

・他者との話し合い活動を取り入れ、主体的な傾聴と適切な自己表現等を可能にするコミュニケーション能力を向上させることを意識している。
・ＩＣＴを意識的に活用し、他者から考えることのヒントを提供してもらいながら、自己の考えに発展的に繋げられるようにしている。

令和５年度 横浜氷取沢高等学校 公開研究授業 学習指導案【グローバル教育研究推進校】

＜今年度の校内授業研究テーマ＞

他者とのやりとりを通じて、多様な考え方を理解し、新たな考えを発信できる指導と評価の研究

令和５年 12 月１日（金）　６校時

教　科：公民	科　目：公共	授業担当者：石川 聡彦
単元名：市場経済の機能と限界		

１．本単元で育成したい資質・能力　〔目指すべき生徒の学ぶ姿〕

・社会との関わりを意識した課題を追究したり解決に向けて構想したりする力

・現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度

２．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
市場経済の機能と限界に関わる現実社会の課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られることについて理解し、経済運営のあり方の変遷に関する諸資料を読み取ることができる。	自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって説明したり発表したりすることができる。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしたり、分かったことや気づいたことを相手に伝わるように表現しようとしたりしている。

３．単元について

この事項は、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること，市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていることを理解できるようにすることをねらいとしている。市場経済においては、公正で自由な競争を促進し企業が創意工夫を発揮し事業活動を活発化することで、消費者の利益が確保され社会的余剰が最大化されている。このため、市場における競争を維持・促進するための政府による適切な政策が必要になることを理解できるようにすること、「小さな政府」の考え方と「大きな政府」の考え方の比較考察を通して、経済的主体などとしてよりよい社会の形成に参画する生徒の育成をめざす。

４．単元計画における指導と評価の工夫点

（１）「知識・技能」の指導と評価

・指導：協働学習を通して得た知識が、生きて働く知識として習得されるように促す。

・評価：定期試験

（２）「思考・判断・表現」の指導と評価

・指導：社会との関わりを意識した課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を充実させる。

・評価：ロイロノートでの課題・定期試験

（３）「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

・指導：現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を、授業内の様々な活動を通して養う。

・評価：学習プリントの内容

５．単元の指導と評価の計画（本時は、　６　時間扱いの　５　時間目）

◇は「学習の質を高めるための評価」（＊形成的評価）、☆は「記録に残す評価」（＊総括的評価）

時	主な学習内容	主な学習活動	評価場面・活動
1	経済と私たちの生活	経済の３主体について理解する	
2	家計と労働	トレードオフと機会費用について説明する	☆プリントの内容
3	資本主義経済	資本主義の変遷について理解する	
4	社会主義経済とその考察	社会主義の特徴と政府の役割について考察する	◇考察の様子
5	政府の役割について	本時の展開を参照	☆話し合いの記録
6	市場のしくみ	価格の自動調節機能について理解する	☆プリントの内容

６．本時の目標／本時のねらい

・小さな政府と大きな政府の最適な組み合わせとはなにか

７．本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	【評価の観点】評価方法
導入 **(10 分)**	・前時の復習	・小さな政府と大きな政府のメリットとデメリットを全体で確認し共有する。	
展開 **(35 分)**	・グループワークを行い、自分の意見と比較する。 ・数名指名し、クラス全体への発表をおこなう。 ・その後、それぞれのメリットとデメリットについて再度記入する。	・他の人の意見を受け入れ、自分の意見と比較するよう促す。 ・再度記入させる際は、色を変えてその変化をわかりやすくする。	
まとめ **(5 分)**	・協働学習の内容をふまえ、自らの見解をロイロノートのカードにまとめて提出する。	・箇条書きで記入させる。	ロイロノートで提出されたカード【主体的に学習に取り組む態度】【思考・判断・表現】

８．今年度の校内授業研究テーマに対して授業担当者が意識して取り組んできたこと

・公共は、社会に参画する主体として自立することや、他者と協働してよりよい社会を形成することなどについて考察する科目であることをふまえ、自分の意見を持つことと、他者の意見を取り入れることの重要性を授業を通して伝えるよう意識した。

令和５年度 横浜氷取沢高等学校 公開研究授業 学習指導案【グローバル教育研究推進校】

＜今年度の校内授業研究テーマ＞

他者とのやりとりを通じて、多様な考え方を理解し、新たな考えを発信できる指導と評価の研究

令和５年 12 月１日（金）　５校時

教　科：数学	科　目：数学Ⅱ	授業担当者：飯田 泰司
単元名：指数関数と対数関数		

１．本単元で育成したい資質・能力　〔目指すべき生徒の学ぶ姿〕

指数・対数の性質を用いながら、その演算が確実にできるようにするとともに、それらを活用し、物事を深く考察する力を養いたい。その手立てとして、グループ学習を行い、対数関数の性質を確認し、さらに自らの考えを数学的な表現で他者に説明できる力の育成を目指す。また、グループ学習では理解の個人差を埋めるとともに、他者と協働して問題解決することのよさを体験させ、実感させたい。

２．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
指数や対数および指数関数や対数関数の基本的な概念、性質などを理解し、知識を身につけ、値を求めたり、数量の変化を表現したりすることができる。	事象を指数関数や対数関数を用いて考察し、表現することや、その過程を振り返ったりすることを通して、関数的な見方や考え方を身につけている。	指数の拡張や指数関数、対数関数に関心をもち、指数や対数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識し、事象の考察に活用している。

３．単元について

指数関数や対数関数は、数学において重要なだけではなく、自然科学や社会科学などの多くの分野でも取り扱われ、身近な現象を考察するのに役立っている。特に、地震の大きさや音の大きさ、光の明るさの単位にも利用されており、化学や物理などを学ぶ中でも指数関数や対数関数の有用性を認識できる単元でもある。

４．単元計画における指導と評価の工夫点

（１）「知識・技能」の指導と評価

・指導：基礎的な内容を確実に身につけられるよう、授業中の発問や演習を行いながら定着を図る。

・評価：定期テスト、ワークシート

（２）「思考・判断・表現」の指導と評価

・指導：作業・演習などの課題を与え、机間指導により確認をする。

・評価：定期テスト、ワークシート

（３）「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

・指導：単元全体の内容の意義や目的を提示し、関心・意欲を高める。

・評価：課題提出、小テスト、授業中の態度

５．単元の指導と評価の計画（本時は、 12 時間扱いの 10 時間目）

◇は「学習の質を高めるための評価」（＊形成的評価）、☆は「＊記録に残す評価」（総括的評価）

時	主な学習活動	指導上の留意点	学習内容	評価場面・評価活動
1 2	指数が正の整数から実数まで拡張しても、定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を用いて計算することができる。	復習をし、拡張しても指数法則が扱えることを、具体的な例を出しながら、丁寧に説明をしていく。	指数の拡張	◇ワークシート 思考の過程を記録する。
3 4	指数関数のグラフの特徴を理解し、指数関数の方程式・不等式を解くことができる。	グラフを用いて、特徴に注意しながら、問題を解かせる。	指数関数	◇ワークシート 思考の過程を記録する。 提出する。
5 6 7	対数の定義を理解し、対数の値を求めることができる。 対数の性質、底の変換公式を用いて、計算することができる。	指数を利用して対数の意味を丁寧に説明していき、しっかりと理解させるため演習の時間を多めにとる。	対数とその性質	◇ワークシート 思考の過程を記録する。 演習課題定着度合いを測る。 協働学習をする。
8 9 10	対数関数のグラフの特徴を理解し、対数関数の方程式・不等式を解くことができる。	グラフを用いて、特徴に注意しながら、問題を解かせる。 協働的学習を促す。	対数関数	◇ワークシート 思考の過程を記録する。 演習課題定着度合いを測る。 協働学習をする。
11	正の数を$a \times 10^n$の形に表して、常用対数表を用いて値を求めることができる。 桁数や小数第何位に初めて０でない数字が現れるかを、求めることができる。	常用対数の有用性を認識し、解法が暗記にならないよう、過程を丁寧に説明していく。	常用対数	◇ワークシート 思考の過程を記録する。 提出する。
12	定期テスト			☆ペーパーテスト

６．本時の目標／本時のねらい

グループ学習を行い、自分の理解度を確認し、さらに自らの考えを数学的な表現で他者に説明する力を養う。また、グループ学習では理解の個人差を埋めるとともに、他者と協働して問題解決することのよさを体験させ、実感させる。

７．本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	【評価の観点】評価方法
導入 (5 分)	・プリントの配布 ・本時の授業の説明		
展開 (30 分)	・グループ学習	学び合いが積極的に行われるよう適切に声掛けをする。時間配分に注意しながら、机間指導を行う。	【主体的に取り組む態度】 ・対数関数の方程式・不等式を解くことができる。 ・問題を協力しながら解き進めることができる。
まとめ (15 分)	・各グループ内の答案をロイロノートで集め、全体で共有	生徒の理解が足りない部分を簡潔に説明する。	

８．今年度の校内授業研究テーマに対して授業担当者が意識して取り組んできたこと

・生徒の演習の時間を確保するため、電子黒板やロイロノートを活用して、分かりやすい授業や効率的な授業を目指してきた。演習の時間にグループ学習を取り入れることで、個々の学習よりも、生徒同士の学び合いなどに主体的に取り組んでいる生徒が多く見られ、授業の活性化に効果があったように思われた。また、進行に時間がかかることや班のメンバーによっては教え合いにならないなどのデメリットもあるため、グループ学習を取り入れるタイミングやグループ学習の形態を変えていくなどの、デメリットを踏まえたうえでの適切な実践を心掛けてきた。

令和５年度 横浜氷取沢高等学校 公開研究授業 学習指導案【グローバル教育研究推進校】

＜今年度の校内授業研究テーマ＞

他者とのやりとりを通じて、多様な考え方を理解し、新たな考えを発信できる指導と評価の研究

令和５年 12 月１日（金）　６校時

教　科：理科	科　目：生物基礎	授業担当者：川口 恵
単元名：ヒトのからだの調節 ― 免疫 ―		

１．本単元で育成したい資質・能力　〔目指すべき生徒の学ぶ姿〕

新型コロナの出現、感染拡大において、恐怖や問題の多くは“未知”、知らないこと、分からないことから発生していた。正体が分からないことは恐怖を最大値へと引き上げる。今後も起こりうる新型の感染症、またアレルギーやがんなどの免疫系が強く関与する疾患に対し、必要かつ適切な知識、情報収集能力、判断力をもつことが求められる。本単元は、極めて多くの知識量を必要とし、かつそれを整理し関連付けることが求められる。生徒にとっては、各自が内容を理解し深めるために、情報を的確に収集し、それを視覚化、言語化して理解すること、さまざまなデータの処理やグラフの活用による知識の整理と関連付けが求められる。

生体防御・免疫という現象を正しく理解し、新型コロナやインフルエンザなど脅威となる感染症に対し、恐怖ではなく冷静かつ的確な判断、行動、準備や社会参加ができる人間へと成長してほしい。そのため、情報の整理能力や関連付け、広範囲に渡る知識の整理方法としての視覚化、言語化を学び、それらを活用しての科学的・論理的な思考を養いたい。

２．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
・生体防御の 3 つの段階の存在、役割の違いを理解している。 ・白血球の食作用について理解している。 ・免疫に関係するさまざまな免疫細胞、白血球の種類と働き、免疫系の器官･組織を理解している。 ・自然免疫で何が食作用をもつか、細胞ごとの分担を理解している。 ・抗体が特定の抗原と結合し、抗原抗体反応を起こすことを理解している。	・物理的・化学的な防御どのようなものかを理解し、防御に何が有効かを実生活と関連付けて考えられる。 ・なぜはれや炎症、発熱が起こるのか、感染症との関係を説明できる。 ・獲得免疫の一次応答の過程を説明できる。 ・グラフをもとに、二次応答によって同じ感染症にかかりにくいことを読み取り、説明できる。（資料 10）。	・生体防御の概略さ細胞・組織・器官など基本概念や基本項目を個人の意欲として取り組むよう、難易度の低いプリント教材を設定し、周囲と競いながら取り組む姿勢が見られるようになったかを見る。 ・免疫に関係する細胞の分化、名称、はたらきの確認をグループワークすることで、協働に参加する姿勢、助け合う意欲をみる。

・二次応答の特徴を理解している。 ・自然免疫と獲得免疫の抗原認識の違いを理解している。 ・アレルギーや花粉症などの起こるしくみを理解している。 ・エイズは、HIV によって T 細胞が破壊されることで生じることを理解している。 ・予防接種や血清療法は、二次応答を利用した医療であることを理解している。	・自然免疫と獲得免疫について，関係する免疫細胞と幹となる働きを整理しながら説明できる。 ・自然免疫と獲得免疫で共通点、相違点を整理し、非特異的と特異的が何を指し示すか説明できる。 ・ワクチンの接種による感染症予防の有効性、そのしくみについて説明できる。	・獲得免疫の幹となる部分の確認をグループワークを通し視覚化することで、理解の共有にどの程度参加できたかをみる。 ・二次応答のグラフを活用したグループワークの中で、的確なグラフの読取りの協働にどの程度参加できたかを各自確認させる(資料 10) ・自然免疫と獲得免疫の比較をグループで取り組ませる中で、情報の分析にどのように関われたかをみる。

３．単元について

本単元は、生体防御について、その対象となる異物の確認、生体防御の 3 ステップ（物理的・化学的な防御、自然免疫、獲得免疫）、それに付随するさまざまな現象（免疫寛容や免疫記憶）、また様々な疾患（免疫不全、アレルギー）、さらには医療との関係（拒絶反応、ワクチン、血清療法）を学ぶものである。社会がグローバル化するなか、いつどのような新たな感染症が来訪するか、また温暖化により太古の感染症が驚異となって復活するか分からない。それらに対し、現在は、自分を、家族を、社会を守り発展させることのできる人材へと生徒が成長する最良の機会である。そのために必要な様々な能力を少しずつでも個々身に付けることを目標としたい単元である。

４．単元計画における指導と評価の工夫点

（１）「知識・技能」の指導と評価

・指導：生体防御に関する基本項目を順序立てて整理し、全体の概略から理解を図り、細部の様々な名称、はたらきを視覚化すること、項目の強弱を明確にすることで定着を図る。

・評価：項目確認のプリントを毎時配布する予定である。それらに関して、プリントベースとロイロベース、さらに個人での取り組みとグループでの取り組みをまぜこぜにして実施し、これらを通して取り組み具合、定着の程度を評価の対象とする。

（２）「思考・判断・表現」の指導と評価

・指導：生体防御の 3 段階の違い、役割、効果を正しく理解し、仕組み全体を他者と協力し理解することで深め、自ら言語化、視覚化できるよう課題を設定する。そのため内容の整理、項目ごとの強弱。幹と枝葉、理解の幹の育て方・育ち方を分かる形で授業の展開を図る。

・評価：学習を通して、内容の深い理解が進んでいるか、正しく判断するための材料の検討と選別が行われているか、言語化を積極的に行っているかを評価する。

（３）「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

・指導：授業内での取り組みを個人ベース、グループベースでそれぞれ実施している。それぞれを組み合わせることで、個々の生徒にとって取り組みやすいものを見つけ、自らの変容を確認させるよう授業を構成している。

・評価：グループ内、クラス内での学習への取り組み。役割とその変化提出物の内容、記載の変化で見極め評価する。学習に対する計画性と順序立ての変化も評価する。

５．単元の指導と評価の計画（本時は、　９　時間扱いの　５　時間目）

◇は「学習の質を高めるための評価」（＊形成的評価）、☆は「＊記録に残す評価」（総括的評価）

時	主な学習活動	指導上の留意点	学習内容	評価場面・評価活動
1	生体防御の概略とウイルスや細菌などの病原体の確認	様々な疾患と感染症・生体防御の関係を正しく整理する。ウイルスと細菌の区別をはっきりさせる。	生体防御の概要を教科書を使い確認する。その中で、様々な疾患について、感染症か否か、病原体は何かを考えさせ、感染症へ興味を向かせる。	◇様々な疾患について感染症か否か、生体防御が働くか否か、原因となる細菌やウイルスは何か、各自で回答させ、個人の意識を確認する。
2	物理的・化学的防御と自然免疫の概要	生体防御に３段階あることを理解させる。どれが強い弱い、良い悪いでなくすべての特徴、長所短所を正しく理解する。	・物理的・化学的防御を具体化し、それ身体感覚の実体験とつなげ明らかにする。 ・３種類の食細胞の動画を活用し馴染みあるものとして理解させる。	具体的な物理的・化学的防御をその働きを創造し分類させる。 ◇自分でできる物理的・化学的防御を上げさせてみる。 ３種の食細胞を特定させる。
3	さまざまな白血球、リンパ球と免疫系の組織・器官 自然免疫	グループワークを中心に展開する。そのなかで互いの関係性、協働を育てる。 組織器官や細胞を時間を限定し確認させる。 ここまでの振り返りで演習に取り組ませる。	教科書と配布資料を活用し、免疫に関係する組織・器官の特定、各種細胞の分化と大まかな働きを確認する。細胞についてはロイロノートを活用し、個人で提出する。	☆免疫に関係する組織・器官・細胞を網羅的に確認させる。特に細胞について働きまで含め課題に取組ませる ◇生体防御全体の概要と自然免疫について、演習課題を使い基本内容の確認のための演習

4	獲得免疫（体液性免疫と細胞性免疫）	獲得免疫までの概論を説明し、その後グループで２つの獲得免疫のプリントを活用し、教科書を補助として解答させ、グループ課題として提出させる。	樹状細胞→ヘルパーT細胞を軸とする獲得免疫の幹の部分を、グループワークを中心に視覚化する。	☆グループワークで取り組む体液性免疫と細胞性免疫も視覚化教材への酸化の仕方を見る。
5	抗体、免疫記憶	抗体が獲得免疫の中核であること、免疫記憶が免疫という働きの本質であることを確認する。免疫記憶を深堀するため、二次応答のグラフを活用する。グループワークは段階を分け、説明を加える。	抗体の構造、特徴、B細胞の分化を教科書を中心に確認する。そこから免疫記憶、記憶細胞の形成を前回の獲得免疫で確認し、二次応答のグラフを活用しグラフの読取りを身に付ける。	☆グラフの読取りを個人→グループ→個人で実施し、グループワークでの情報共有と協働の作業の中で考えの共有、新たな考えの発信、他者評価に挑む。
6	自然免疫と獲得免疫の比較、非特異的と特異的・それって何？	ここまでの生体防御を振り返り、自然免疫と獲得免疫の違いと関係性を明確にし、非特異的と特異的の指し示す内容を正しく理解し、両免疫の効果の違いを理解する。	樹状細胞とマクロファージを軸に、抗原提示と免疫細胞の活性化の着目し、自然免疫が非特異的な免疫であること、獲得免疫が特異的免疫であることをクローズアップする。	☆個人→グループ→個人で、特異的と非特異的を自分のことばでまとめロイロで提出する。過程を経る中で考えに起こる変化を確認する。
7	アレルギー、花粉症、免疫不全	アレルギーや自己免疫疾患，エイズなど身近な免疫に関する疾患の生じるしくみを理解する。	自己免疫疾患やエイズが免疫系の誤作動でどのように生じるかを通して免疫寛容についての理解を進める。 アレルギー理解の一歩として、花粉症発症の仕組みを理解する。	自然免疫と獲得免疫では抗原認識が違い，自然免疫が獲得免疫を誘導することによって，免疫の反応が基本的に病原体にのみ起こることを説明できる。 ◇身近なアレルギーを10種類挙げる。

8	免疫と医療（拒絶反応、ワクチン）	免疫のしくみを用いている予防接種や血清療法のしくみを理解する。特にコロナ禍で注目された各種ワクチンについて詳細な理解を進める。移植・拒絶反応と免疫寛容の関係を理解する。	予防接種が二次応答を利用した予防医療であることを理解する。コロナ禍で様々登場したワクチンについて、二次応答を利用した医療であることを正しく理解する。	過去、自分が経験した予防接種を正しく記憶している。 予防接種に潜む危険性について、また予防接種の効果について正しく判断できる。 ◇ワクチンの接種による感染症予防のしくみを正しく説明できる。
9	血球と血清の凝集反応（血液型と輸血）	いわゆる血液型が血清と赤血球の間で起こる抗原抗体反応であることを理解し、輸血の組合せについて正しく理解する。	血清中の凝集素、赤血球上の凝集原について、血液型ごとに整理し、そこで起こる抗原抗体反応（凝集反応）を正しく理解する。	☆正しく血液型の判定ができるか、誰から誰へ輸血可能かを判定できるかグループで演習に取り組む。

６．本時の目標／本時のねらい

・獲得免疫の特異的な抗原への攻撃を支える“抗体”について、その構造と産生、さらに免疫記憶による二次応答が感染症の再侵入にどのような効果を生むかを正しく理解する。
・グラフを用いてのグループワークから、データの読み取り、整理を他者との協働で行うことの有効性を体感する。

７．本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	【評価の観点】評価方法
導入 (10 分)	特異的免疫である獲得免疫の概略を前回資料で確認	本時の目標（抗体と抗体量変化のフラフ）を確認	
展開① (15 分)	プリントを使い、抗体の構造、免疫記憶について教科書を中心に活動。 プリントの文章を読み込むことも大事。	抗体の構造、形状、抗原抗体反応について視覚的な理解を図る。 記憶細胞については前時のプリントで各自確認し、免疫記憶がいわゆる免疫の核心であることを理解させる。 課題 2　免疫記憶については時間限定。ロイロ提出	【知・技】 課題 1　記憶細胞の確認が適切に行われているか。（◇） 【思・判・表】 課題 2　免疫記憶の説明が適切に行われているか。（◇）

展開② **(20 分)**	感染に伴う抗体量の変化グラフを使い、グラフの構成、必須の確認事項、これまでの知識の確認を行う。 後半、他の抗原の感染、1・2 回目感染による発病有無の原因、インフル複数回発病の解説を個人、グループで実施。	4 人組グループ編成。 二次応答に伴う抗体量の変化のグラフを使用。 課題 1～3 でグラフの基本構成の読取り、作成を実施 課題 4～6 でグラフの読取り、これまでの学習内容との統合を求める。 その際、個人の考え、グループでの意見交換、それに伴う考えの変化を期待する。	【知・技】 課題 1～3 への取り組みと理解度（☆） 【思・判・表】 課題 4～6 に対する取り組みとグラフの読取り。比較すべきものが比較されているか。関係する部分が正しく参照されているか。（☆）
まとめ **(5 分)**	本時の振り返り グループワークに関する（他者）評価を作成	振り返りの評価は、あくまで個人で実施。基本的に評価は見せない。	【主体】 積極的に評価を行えたか。意味のあるコメントができているか。（☆）

８．今年度の校内授業研究テーマに対して授業担当者が意識して取り組んできたこと

・グループワークの中で、情報を共有し、互いに意見、提案を行い、互いの考えを生かした展開が行われるよう取り組んできた。効果的に協働が実行でき、自他を評価できることを期待する。
・他者に意見をぶつける、他者の意見を尊重する。協働の中でグループ内での適切な情報共有の実現を目指してきた。

令和５年度 横浜氷取沢高等学校 公開研究授業 学習指導案【グローバル教育研究推進校】

＜今年度の校内授業研究テーマ＞

他者とのやりとりを通じて、多様な考え方を理解し、新たな考えを発信できる指導と評価の研究

令和５年 12 月１日（金）　６校時

教　科：保健体育	科　目：体育	授業担当者：島田 龍次郎
単元名：持久走		

１．本単元で育成したい資質・能力　〔目指すべき生徒の学ぶ姿〕

・自己の目標に適したペースを維持し、一定の時間を走り通し、距離を延ばしたり、単元を通して体力を高めることができる。（知識及び技能）

・自他の課題を発見し、合理的な解決に向けた運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。（思考力, 判断力, 表現力等）

・自主的に取り組むとともに互いに支え合い教え合うことで、安全を管理しながら授業に取り組むことができる。（主体的に学習に取り組む態度）

２．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
・目標心拍数や自身の目指す周回数を達成することができる。 ・単元を通して持久力を向上させることができる。	・自己の課題を適切に見つけることができる。 ・他者に対し自己の考えを表現することができる。 ・協働的な振り返りを通して自己の走りを変えようとすることができる。	・持久走の学習に対し自主的に学習に取り組むことができる。 ・安全に留意しながら取り組むことができる。

３．単元について

本単元は持久力の向上と健康の保持増進の理解を目的に 6 時間に渡って行われる。20 分間で 1 周 500mのコースを走り、走った距離と心拍数を計測する。全身持久力に加え、ペース配分や目標達成・記録更新を実現させる計画性、体力や精神的に苦しい場面で踏ん張る精神力が求められる。さらに単元を通して運動をして汗を流す心地よさや自己の成長を感じることで、運動を通した健康の保持増進について理解することができる。また自らを追い込むことや運動習慣のない生徒が激しい運動をすることなど様々な理由で体調不良者が出ることが特徴である。死角がないような教員の配置や体調不良者が出た際の迅速な対応、事前の注意喚起によるセルフマネジメントの徹底により十分な安全への配慮が必要である。

４．単元計画における指導と評価の工夫点

（１）「知識・技能」の指導と評価

・指導：タイマーを見える位置に配置し１周ごとのタイムが分かるようにし、ペースが乱れた生徒に対してはペース配分の指導や動きの変化を伝え改善方法を指導する。

・評価：走距離や心拍数の変化から

（２）「思考・判断・表現」の指導と評価

・指導：ロイロノートを活用し、グループで振り返りを行う。共有ノートの機能を使用し自己の振り返りや課題を記入し、同じグループの人の課題に対し自身の考えを伝える。

・評価：自己の課題を適切に捉えているか、他者の課題内容に正対した考えを伝えることができるか、振り返りを踏まえて見つけた解決方法を走る中で表現できるかのサイクルを評価する。

（３）「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

・指導：持久走を行うことの意義や安全を確保することの重要性を説明し、生徒の自主性を引き出す。

・評価：持久走及び振り返りに対して自主的に取り組むことができる。さらに自己の体調に合わせ安全に配慮した取り組みができているかを評価する。

５．単元の指導と評価の計画（本時は、　７　時間扱いの　４　時間目）

◇は「学習の質を高めるための評価」（＊形成的評価）、☆は「＊記録に残す評価」（総括的評価）

時	主な学習活動	指導上の留意点	学習内容	評価場面・評価活動
１	オリエンテーション・試走	実施の意義や安全面についてわかりやすく説明する。	目標心拍数の設定 コース、スタート位置、計測方法の確認。	取り組みの態度
２	実走	一定のペースを乱さず走り切るよう注意する。	20 分間走 心拍数の計測・記入	・適切な自己評価か、他者に自身の考えを伝えられているか。 ・走っているときの態度 ・安全に配慮しているか
３	実走	一定のペースで走ることに加え、前回の振り返りで立てた課題や他者の考えをもとにテーマをもって走らせる。	20 分間走 心拍数の計測・記入	・適切な自己評価か、他者に自身の考えを伝えられているか。 ・走っているときの態度 ・安全に配慮しているか
4	実走	2 度の実走と振り返りを踏まえて 1.2 回目より周回数が増えたり、心拍数の変化が起きるようにさせる。	20 分間走 心拍数の計測・記入	・適切な自己評価か、他者に自身の考えを伝えられているか。 ・走っているときの態度 ・安全に配慮しているか

5	実走、個票配布	前半 3 回の活動から自己の変化や課題を明確にし、後半の計画を適切に設定する。	20 分間走 心拍数の計測・記入	・適切な自己評価か、他者に自身の考えを伝えられているか。 ・走っているときの態度 ・安全に配慮しているか
6	実走	前半に比べ安定して好記録を出すことができるようにする。	20 分間走 心拍数の計測・記入	・適切な自己評価か、他者に自身の考えを伝えられているか。 ・走っているときの態度 ・安全に配慮しているか
7	実走・まとめ	自身の 6 回を通しての変化や汗を流すことの心地良さから運動を通した健康の保持増進をする意義を理解できるようにする。	20 分間走 心拍数の計測・記入	・適切な自己評価か、他者に自身の考えを伝えられているか。 ・走っているときの態度 ・安全に配慮しているか

６．本時の目標／本時のねらい

・他者との交流による振り返りから意識して取り組んだ実走で記録や体の反応から確かな変化を感じられるようにする。

７．本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	【評価の観点】評価方法
導入 **(10 分)**	・出席確認 ・準備運動	気温が低いこと、強度の高い運動を行うことから怪我や体調不良のないよう十分な準備運動をするよう指導する。	
展開 **(30 分)**	・実走 ・心拍数の計測	・振り返りの内容を改めて確認してから行わせる ・安全確保として、横に広がらず内側を走り、抜かす際の接触がないようにさせる。	目標をもって自己のペースを保とうとしているかを観察で捉える。
まとめ **(10 分)**	・カードの記入	・怪我人や体調不良者がいないかを確認する。	時間外の振り返りで適切に自己評価ができているか、他者の課題に正対した意見が述べられているかを振り返りシートで捉える。

８．今年度の校内授業研究テーマに対して授業担当者が意識して取り組んできたこと

・３クラス 120 名近くの生徒が一度に動き、時間の制約がある中でテーマを実行するときに「ふりかえり」に着目した。ICT 教育を推進している学校であり、日頃からロイロノートを活用している。そこで共有ノートの機能を活用し、普段は教員に提出し評価する一対一の振り返りを、オープンな場である共有ノートにすること、振り返りにグループを活用するといった取り組みを行った。誰でも見られるから機能を使うことでグループ外の生徒の意見を見ることもでき、幅広い考えを持つことができる。「ただ走るだけ」にはならない、考えて走る授業にすべく努めた。

令和５年度 横浜氷取沢高等学校 公開研究授業 学習指導案【グローバル教育研究推進校】

＜今年度の校内授業研究テーマ＞

他者とのやりとりを通じて、多様な考え方を理解し、新たな考えを発信できる指導と評価の研究

令和５年 12 月１日（金）　５校時

教　科：外国語（英語）	科　目：英語コミュニケーションⅡ	授業担当者：栗栖 司
単元名：An Irish poet on a Mission		

１．本単元で育成したい資質・能力　〔目指すべき生徒の学ぶ姿〕

本単元を通して日本文化について理解を深め、「日本人らしさ」を理解しようとする姿勢
日本の文化的特徴に関して英文から理解し表現できる力

２．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
関係詞を用いた英文の構造を理解し、ピーター・マクミランの活動について書かれた文章の内容を理解することができる。	ピーター・マクミランが英訳する際に難しいと感じた日本の文化について、他者に伝えることができる。	本文の内容を読んだり聞いたりし、理解した日本の文化の特徴について他者に伝えようとしている。

３．単元について

本単元では、日本と海外をつないだ偉人の１人として翻訳家であり詩人であるピーター・マクミランについて学ぶ。日本文学に興味を持ったマクミランが翻訳家としてどのように翻訳していくかについての英文をとおして、外国人が感じる日本文化への違和感を理解することができ「日本人らしさ」を学ぶことができる。

４．単元計画における指導と評価の工夫点

（１）「知識・技能」の指導と評価

・指導：本文内容の理解に必要な知識を身に付けるために、講義やペアワークで指導を行う。
・評価：特定の言語材料が使われている英文を読み、その英文を理解できているかを評価する。

（２）「思考・判断・表現」の指導と評価

・指導：本文を読み日本文化の特徴や、本文内容に関する自分の考えを表現できるよう指導する。
・評価：タスクへの取組状況や生徒が考えた内容や表現した内容を評価する。

（３）「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

・指導：授業の目的を理解し、本文の内容から日本人らしさを理解するために意欲的に取り組めるよう声掛け等行う。
・評価：取組状況や提出状況の観察を行う。

５．単元の指導と評価の計画（本時は、　９　時間扱いの　９　時間目）

◇は「学習の質を高めるための評価」（＊形成的評価）、☆は「＊記録に残す評価」（総括的評価）

時	主な学習活動	指導上の留意点	学習内容	評価場面・評価活動
1	Part1 に関して新出語彙や新出文法について理解し、本文の概要をつかむ。	キーワードから本文の概要を理解できるよう生徒間で考える時間を作る。	・新出単語調べ ・本文のリスニング ・新出文法の確認	☆後日定期試験(1) ☆ペアワークへの取組(3) ☆ワークシートへの取組(2),(3)
2	Part1 に関して内容を理解し、音読活動を行う。	生徒が内容を理解できるよう、本文の和訳を扱い授業を進める。	・ペアで音読 ・内容理解問題 ・和訳を確認しながらの音読活動	☆後日定期試験(1) ☆ペアワークへの取組(3) ☆ワークシートへの取組(2),(3)
3	Part2 に関して新出語彙や新出文法について理解し、本文の概要をつかむ。	キーワードから本文の概要を理解できるよう生徒間で考える時間を作る。	・新出単語調べ ・本文のリスニング ・新出文法の確認	☆後日定期試験(1) ☆ペアワークへの取組(3) ☆ワークシートへの取組(2),(3)
4	Part2 に関して内容を理解し、音読活動を行う。	生徒が内容を理解できるよう、本文の和訳を扱い授業を進める。	・ペアで音読 ・内容理解問題 ・和訳を確認しながらの音読活動	☆後日定期試験(1) ☆ペアワークへの取組(3) ☆ワークシートへの取組(2),(3)
5	Part3 に関して新出語彙や新出文法について理解し、本文の概要をつかむ。	キーワードから本文の概要を理解できるよう生徒間で考える時間を作る。	・新出単語調べ ・本文のリスニング ・新出文法の確認	☆後日定期試験(1) ☆ペアワークへの取組(3) ☆ワークシートへの取組(2),(3)
6	Part3 に関して内容を理解し、音読活動を行う。	生徒が内容を理解できるよう、本文の和訳を扱い授業を進める。	・ペアで音読 ・内容理解問題 ・和訳を確認しながらの音読活動	☆後日定期試験(1) ☆ペアワークへの取組(3) ☆ワークシートへの取組(2),(3)
7	Part4 に関して新出語彙や新出文法について理解し、本文の概要をつかむ。	キーワードから本文の概要を理解できるよう生徒間で考える時間を作る。	・新出単語調べ ・本文のリスニング ・新出文法の確認	☆後日定期試験(1) ☆ペアワークへの取組(3) ☆ワークシートへの取組(2),(3)

8	Part4 に関して内容を理解し、音読活動を行う。	生徒が内容を理解できるよう、本文の和訳を扱い授業を進める。	・ペアで音読 ・内容理解問題 ・和訳を確認しながらの音読活動	☆後日定期試験(1) ☆ペアワークへの取組(3) ☆ワークシートへの取組(2),(3)
9	Part4 本文に関する問いに関して考え、日本人の特徴について理解する。	机間巡視を行い、生徒の話し合いがスムーズに行われるよう声をかける。	・Part4 本文の音読、内容確認問題 ・問いについて英語の記事、レポートを読む	☆ペアワークへの取組(3) ☆ワークシートへの取組(2),(3)

６．本時の目標／本時のねらい

・本文に記述されている、1 文についての問いについて考え、日本人の人間性の特徴を海外の記事や英文を通して理解し、なぜピーター・マクミランが東日本大震災をきっかけに自らの使命を見つけたかについて理解する。

７．本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	【評価の観点】評価方法
導入 **(10 分)**	・本時の目標を共有する。 ・教科書本文を音読し、問題に解答する。 ・「なぜマクミランが東日本大震災をきっかけに自らの使命を見出したのか」という問いについて考える。	問題が分からなければペアで考えるよう声をかける。	☆ペアワークへの取組(3) ☆ワークシートへの取組(2),(3)
展開 **(25 分)**	・海外の写真を見て、何に関する写真かグループで予想する。 ・looting という単語の意味を調べる。 ・再度写真を見て海外の状況を共有する。 ・東日本大震災に関する英語のレポートを読み、日本人の特徴を理解する。	・生徒が考えを共有し、授業に取り組みやすくするためにグループで実施する。 ・グループ内の特定の生徒にだけ頼ることがないよう声掛けを行う。	☆ペアワークへの取組(3) ☆ワークシートへの取組(2),(3)

まとめ (15 分)	海外からみた日本人の人間性についてネット記事を通し理解し、再度「なぜマクミランが東日本大震災をきっかけに自らの使命を見出したのか」という問いについて考え、自分の考えを共有する。	日本語を用いて生徒全員が共通認識を持ったうえで授業に取り組めるようにする。	☆ワークシートへの取組(2),(3)

８．今年度の校内授業研究テーマに対して授業担当者が意識して取り組んできたこと

・クラスメイトだけを他者として考えるのではなく、ネット記事や動画など外部リソースも他者と捉え、多様な考えに触れ生徒の考えに変化が起こるように意識した。

令和５年度 横浜氷取沢高等学校 公開研究授業 学習指導案【グローバル教育研究推進校】

＜今年度の校内授業研究テーマ＞

他者とのやりとりを通じて、多様な考え方を理解し、新たな考えを発信できる指導と評価の研究

令和５年 12 月１日（金）　６校時

教　科：家庭	科　目：家庭基礎	授業担当者：村上 飛鳥
単元名：より良い食生活をつくる		

１．本単元で育成したい資質・能力　〔目指すべき生徒の学ぶ姿〕

（１）知識・技能

・ライフステージに応じた１日に必要なエネルギーや栄養素、特徴について理解する。

・食品の栄養的特質や調理上の性質について理解し、適切に調理を行う技能を身に付ける。

（２）思考力・判断力・表現力

・自分自身の食生活を振り返って問題を見つけて課題を設定し、解決するために自分自身が取り組めることを考え、表現する。

（３）主体的に学習に取り組む態度

・より良い社会の構築に向けて、食生活と健康に係る課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとしている。

２．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
より良い食生活のために、ライフステージに応じた栄養の特徴、食品の栄養的特質、調理上の性質、食品衛生について理解しているとともに、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。	食品の調理上の性質、食の安全、健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

３．単元について

2013 年、日本の伝統的な食文化としての和食がユネスコ無形文化遺産に登録された。その他にも「日本型食生活」はエネルギー産生栄養バランス（PFC バランス）が適正に近いとされており、健康のために理想的な食生活であると言える。また、青年期の高校生にとって食事は、生命を維持するという生理的役割だけではなく、身体の成長や、将来のための健康的な食習慣を形成するという側面からも非常に重要であり、生活の自立を目指す高校生として、栄養バランスのよい食生活を学ぶ必要性は高いと考える。

しかし、題材の導入にあたって、前日の 1 日分の食事について振り返って記入させたところ、「覚えていない」という回答や「食べていない」と回答する生徒もおり、自分自身の食生活や健康に対する興味・関心が低いということが考えられる。題材を通して、これまでの生活を振り返りながら、青年期の食生活の課題や、人体に必要な栄養素について学習して理解を深めることで、自身の食生活に対する興味・関心を高めていきたい。

本時では、日本の伝統的な和食文化の継承について、「自分自身や家庭の食生活の中で取り組めること何だろうか」と考えることを通して、「生活の営みに係る見方・考え方」である、「健康・安全・快適」や「生活文化の継承・創造」といった視点から、より良い食生活をつくる資質・能力を育成したいと考え、本題材を設定した。

４．単元計画における指導と評価の工夫点

（１）「知識・技能」の指導と評価

・指導：食生活と健康に係る知識・技能がどのよう食生活の改善につながるか、具体的に理解できるように支援する。

・評価：定期試験（食生活の改善につながる問題を設定する。）

（２）「思考・判断・表現」の指導と評価

・指導：単元を通して自分自身の一日分の食事や食生活全体を振り返ることによって、食生活の課題を見つけることができるように支援する。

・評価：ロイロノートでのスライド作成（自分自身が課題解決に向けて実践できることをスライドに簡潔にまとめるように促す。）

（３）「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

・指導：ニュースや映画などを用いて、食にまつわる社会の課題について身近に感じることができるように支援する。

・評価：レポート作成（社会の課題について、原因を分析し、地域や社会が取り組めることについてまとめるように促す。）

５．単元の指導と評価の計画（本時は、 16 時間扱いの 3 時間目）

◇は「学習の質を高めるための評価」（＊形成的評価）、☆は「記録に残す評価」（＊総括的評価）

次	主な学習活動	学習内容	評価場面・評価活動
1 ・ 2	青年期の食生活	・自分自身の食生活を振り返り、青年期における食生活の課題について理解する。	◇自分自身の 1 日分の食事を振り返り、良い点・改善できる点について振り返る。（ロイロノート）
3 ・ 4	世界の食文化と和食	・和食や日本の伝統的な食文化を理解するとともに、文化の継承のために取り組むことができることを考え、表現する。	（本時の展開を参照）
5 ～ 14	栄養バランスの良い 1 日分の食事を考える	・五大栄養素について調べて理解し、まとめて発表する。 ・一日の食事の栄養バランスを考慮したお弁当を作る。（調理実習） ・調理器具の名称や使い方について理解する。	☆五大栄養素について調べ、分かりやすい発表資料を作成する。（ロイロノート） ☆調理実習において、他者と協働しながら、安全かつ適切に調理を行う。（調理実習に取り組む様子）
15 ・ 16	より良い食生活をつくる	・個人や家庭における食生活や SDGｓに配慮した、より良い食生活を送るために、解決すべき課題について考え、表現する。	☆食生活と健康に係る社会の課題について、原因を分析し、解決策を考えてまとめる。（レポート課題）

６．本時の目標／本時のねらい

・日本の伝統的な食文化である和食の特徴について理解する

・日本の伝統的な食文化を継承していくために自分が取り組めることを考え、表現する。

７．本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ●【評価の観点】評価方法
導入 （５分）	・和食の特徴について考える。	・出てきた意見をワードクラウド形式で全体に共有する。 ・1 食分の和食の写真を用意して、特徴を考えやすいように支援する。
展開 (42 分)	●「和食を未来に残していきたいか」 ・自分自身の食生活で、普段、和食を食べているかを振り返りながら、考える。 ・和食や日本型食生活と健康との関わりについて理解する。 ・ユネスコ無形文化遺産に宇登録されている和食の特徴について理解する。 ●「和食を残していくために自分自身ができることは何だろう。」 ・和食文化の保護、継承に向けた取り組みを理解する。 ・和食を残していくために自分自身ができることを考え、表現する。	●自分自身の食生活を振り返りながら根拠をもって考えている。（ロイロノート） ・日本の地理的特徴を踏まえながら理解できるよう支援する。 ●【知識・技能】和食の特徴について理解している。（ワークシート） ●【思考力・判断力・表現力】自分自身や家庭、地域でできる取り組みについて考え、表現している。（ワークシート） ・和食の具体的な献立を提示したり調べさせたりして、普段の食生活にどのように取り入れられるか考えさせる。
まとめ （３分）	・日本の伝統的な食文化の継承やより良い食生活をつくるための見方・考え方をまとめる。	

８．今年度の校内授業研究テーマに対して授業担当者が意識して取り組んできたこと

・これまでの自分の生活を振り返って生徒それぞれの状況や取り組みについてグループやクラス全体で共有することで、各家庭によって生活についての見方・考え方が多様であるということに気づくようにするとともに、科学的な根拠を基に考え、表現するように促している。

校内研究授業にかかる研究協議

教科：国語

１．授業担当者より

・単元計画における指導と評価について気を付けたこと

・テーマが「命」であり、安楽死や自死について取り上げられている単元なので、いきなりそれについて考えたり、生徒同士が話合わせたりすることに抵抗がある。そのため、生徒が考えやすい、話し合いやすいであろう最近話題である「熊の被害」を取り上げて、まずは「生き物の命」について考えさせ、そこから教材に入っていくという展開を考えた。

・また、今回の単元では「書く力」を身に付けさせたいと考えているので、文章の書き方についても指導を行い、論理的な文章が書けるような指導を行っていく。

・今年度の研究テーマに対して意識して取り組んできたこと

・今回のテーマは答えがないものであり、一人ひとりの考え方が異なるテーマであるため、多様な意見を取り入れ、自分の考えを深めるために、ロイロノートの共有ノートや解答共有機能を活用した。

・本日の授業の狙いと振り返り

・最近話題になっている「熊の被害」のニュースを見て、熊を駆除すべきか、しないべきかを考える。ここから今回のテーマである「命」について考えるきっかけを与える。

・駆除すべきというニュース、保護すべきだというニュースを生徒に示したことで生徒が悩みながらも自分の考えをまとめていた。

２．協議出席者より

・成果と課題

・評価する際、個人が考えたことを他者と共有し、さらに自分の考えを深めるという活動をしたときに、その変容を評価するということに難しさを感じる。

・自分の授業に取り入れたい内容

・導入をするとき、現在話題になっているニュースと関連させて生徒に考えさせるのは生徒の興味関心を引くため活用していきたいと考えた。

教科：公民

１．授業担当者より

・単元計画における指導と評価について気を付けたこと

・公共の単元・内容に対して、自身の意見を持ち、他者の意見を取り入れることの重要性を伝える。

・問いに対する生徒の意見や、意見共有を通して形成された考えをしっかりと評価に反映する。

・今年度の研究テーマに対して意識して取り組んできたこと

・自身の意見をしっかりと持つことだけでなく、他者の意見を取り入れることによって、より深い思考・意見を形成していく。

・上記の活動を行うための下支えとなる知識を事前の学習を通して身につけさせる。

・本日の授業の狙いと振り返り

・[狙い]　「小さな政府」「大きな政府」について、他国の事例を取り上げながら、自分にとってよい政府とはどちらかを考え、その意見しっかりと持つ。また、他者の意見共有を通して、新たな視点や考えを受容することで自身の意見をより深いものとする。

・[振り返り]　生徒たちは、非常に積極的に活動しており、自身や他者の意見を書くワークシートも非常に充実していた。

２．協議出席者より

・成果と課題

・上述のように、生徒の活動が非常に積極的であり、よい学習活動であった。

・課題の問いを生徒により身近なものにしたり、対象の場合を変えたりするのなどの工夫をすると、さらに深い学びにつがるのではないか。

・〇「主体的に～」の評価という点で考えると、今回のワークシートをどのように評価・返却し、その後生徒たちがそれを踏まえてどのように活動するかまで見ることが重要である。実際にそれができるのかというのも課題である。

・自分の授業に取り入れたい内容

・ロイロノートの画面共有機能を用いて、多くの生徒たちに他の生徒の意見をしっかりと共有できていた点

校内研究授業にかかる研究協議

教科：数学

１．授業担当者より

・単元計画における指導と評価について気を付けたこと

・授業内で基礎学力をつけてもらうために、授業が教員から生徒への一方通行にならないように気を付けて行ってきた。

・今年度の研究テーマに対して意識して取り組んできたこと

・グループ学習を行っている。実施にあたり授業開始から 10 分間は、生徒が自ら問題を解き、その後、生徒同士の教え、学びあいに移行している。

・本日の授業の狙いと振り返り

・本日もグループ学習を実施したが、自分が考える以上に、問題に取組み、生徒同士の教え、学びあいも、十分達成できたと思う。

・今後は、より効率よく生徒が取組むことができるかなど、より発展した取組みを行いたい。

２．協議出席者より

・成果と課題

・本日の授業で取り上げた内容は、「途中式」が重要になる単元であるので、正誤の訂正の問題とグループ学習に適したものであった。

・どのタイミングで真数条件を入れないといけないのかは、教員がリードして行うことが重要であると、再認識した。

・誰が見ても分かるというフレーズがとてもよかった。

・「完答」「不十分」など、答案のバリエーションがあってもよかった。

・教え、学びあいの時間が長いと思った。もう少し、時間を細かく分けても良かったのではないか。

・正誤問題を取入れてみたい。

・答え合わせの箇所で、答案が難しいものもあった。順列と組み合わせが大切になってくると考える。

・生徒のやり取りが大切になってくる。解答が早く済んだ生徒に採点をやらせてみるなど、ロイロノートを使い、解答を投影するのであれば、提出済みの生徒とやり取りをするのがよいかもしれない。

・授業中に使用する言葉を統一するとよい。（「反対になる」と「逆になる」を混合して使用している）

・今日の大切なポイントを出してもよかったかもしれない。

・自分の授業に取り入れたい内容
  ・楽しそうにやっている生徒が多くてよかった。生徒が生き生きしている。生徒もこのような活動をやりたがっていると感じた。
  ・生徒の回答を一度グループに戻して発表させるのも面白いと思った。
  ・正誤問題を解いている際に、生徒との間で会話ができているのがよかった。
  ・今日は実質復習で終わっているので、これをどのように取り入れ進めて行くことができるのか、グループワークの使い分けが重要と考える。
  ・生徒から我慢して引き出す。
  ・生徒たちとテンポよく授業を進めることができるのが良いと思う。
    （前回の復習をしても良いと思う）

校内研究授業にかかる研究協議

教科：理科

１．授業担当者より

・単元計画における指導と評価について気を付けたこと

・知識を植え込むのではなく、どうアクティヴに取り組んでいるかを授業で評価しようとしている。周囲と情報を共有して、どう関わり合いながら学んでいくのか、を評価したい。

・今年度の研究テーマに対して意識して取り組んできたこと

・グループで協力するために発信し、協力して共有したものを発信していくことにつなげていく。最終的なこと絵は自分たちで求めてもらうようにする。

・本日の授業の狙いと振り返り

・抗体　　視覚的にとらえてもらうこと

・グラフ　自ら読み込んで理解する、まずは、軸の理解からそして総合的に

２．協議出席者より

・成果と課題

・「はたらく細胞」の漫画のパターンから生物のグループワークは難しく発展

・文字で覚えるのはよくないと思っているが、それを解決するヒントになるかも

・電子黒板で生徒とリアルタイムに図を共有することでボーとしている生徒がついていくために緊張することを求められているので良かった。

・暗記でなく、考えさせる授業展開ができていた。

・自分の授業に取り入れたい内容

・軸や相対的数値からのアプローチで、グラフをきちんと見る力をつけさせたい。

・線を記入することで生徒間での進捗状況を共有しているのがよかった。

・縦軸の対数目盛など、数学を先取りする知識を扱わなければならないので大変だが、これをベースに応用力を高めていけるチャンスにできるかも。

・グラフの解釈に食らいついて頑張れば、一層生徒に理解が深まるだろう。

校内研究授業にかかる研究協議

教科：保健体育

１．授業担当者より

・単元計画における指導と評価について気を付けたこと

・初回の授業で良い例を示し、その都度振り返り方法などを確認した。

・共有ノートの中で、必ず記名させることで、記録に残し評価につなげた。

・今年度の研究テーマに対して意識して取り組んできたこと

・ロイロノートでの振り返りの共有、他者から意見をもらうことに取組んだ。

・班によって取組み方に差ができてしまった。

・運動習慣の差が大きいほど、新たな発見につながった。

・本日の授業の狙いと振り返り

・取組み前に手順を確認してから持久走をスタートした。

・意見を共有し、より良い走り方につなげる指導ができた。

２．協議出席者より

・成果と課題

・共有ノートの中で、他者からのアドバイスを通して、走り方の改善につながって、結果、走る距離が伸びたり、楽に追い越すことができる様になった生徒がいた。

・限られた授業時間の中で、明確な振り返りまで指導する部分に難しさがあった。

・自分の授業に取り入れたい内容

・グループ内での意見の共有ができる場面を取入れたい。

校内研究授業にかかる研究協議

教科：外国語（英語）

１．授業担当者より

・単元計画における指導と評価について気を付けたこと

・指導においては、映像、インターネット記事等も他者と捉え、積極的に様々な考えに生徒が振れるように指導し、評価については生徒が英文に対して自己の考えを作成し、それを表現する技能や態度を評価した。

・今年度の研究テーマに対して意識して取り組んできたこと

・授業、単元を通して、生徒が他者の考えを取り入れ、自分の考えに変化が起きるように指導した。

・本日の授業の狙いと振り返り

・海外の災害について扱い、日本での当たり前が海外では通用しないことがあるなどの思考の変化を起こす目的に向けて授業を行うことができたが、時間配分等の課題が残った。

２．協議出席者より

・成果と課題

・グループで様々な問いを考えさせることにより、主体的、対話的で深い学びになっていた。

・机間巡回から全体への Share ができていた。

・本時に限らず、レッスン全体を通じて、生徒のテーマに対する考え方の変化を生徒自身も追跡できる仕組みになっており、深い学びになっていた。

・電子黒板に写真を提示するなど、ict の活用においても、使いすぎず、非常に良いバランスとなっていた。

・英語による対話が少し増えても良かった。

・自分の授業に取り入れたい内容

・レッスン全体を通じて学びを進める中で、自身や他者の考え方がどのように変化するのかを見る、という視点はなかったのでぜひ取り入れていこうと思った。

・深い学びは母国語、それ以外は英語という視点を学ぶことができた。

・教科書に関連する英文を探して深い学びにつなげてらっしゃったので、今後の授業で関連文献を積極的に活用していこうと考えた。

校内研究授業にかかる研究協議

教科：家庭

１．授業担当者より

・単元計画における指導と評価について気を付けたこと

・ロイロノートを活用して、和食についての個々の意見を共有しながら、その特徴を理解させた。その際に、「和食が良い」という型にはめた評価をしないよう心がけた。食生活は家族構成や好みよっても様々であり、賛成・反対の固定観念にとらわれないようにした。

・今年度の研究テーマに対して意識して取り組んできたこと

・互いに「昨日、何食べた？」など身近なやりとりから導入し、最終的には自分の食生活について考えることに結び付けた。和食文化の継承ために日常生活でできることは何か、季節料理やおせち料理などの行事食を例にあげて、自分自身の考えを発信し、多様な考え方を理解できるよう取り組んだ。

・本日の授業の狙いと振り返り

・和食や日本型の食文化を取り入れるために自分ができることは何かを考えることにより、季節料理や行事食などに気づき、献立の工夫につなげることができた。

２．協議出席者より

・成果と課題

・日常の食生活をあらためて考えてみるよい機会となった。

・自分ができることは何か、献立の工夫やアイデアにつながった。

・自分の授業に取り入れたい内容

・様々な意見を共有し、固定観念にとらわれずに理解し合う様子。